

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2020年7月30日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第34号

新型コロナウイルス感染症とコミュニティ

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の影響で自粛が続くなか、学生の発案で外国人住民に対する食料支援を行うことになった。6月末時点で、京都市内を中心に約100世帯を回った。また名古屋などの遠隔地や、イスラム教徒が集まるモスクでは、NGOと協力してひとり親世帯を中心に食料支援を行った。新型コロナは、実際には一様に人々に襲いかかるのではない。経済的な打撃は千差万別だ。最も脆弱なのがアルバイトで生計を立てる人々で、それは留学生や、結婚で来日した女性たちである。しかも、高齢者層がうける影響がより大きい。アンケートによれば、アルバイトで生計を立てる外国人住民において、新型コロナの前後で収入が10万から3万円余りに落ち込んでいる。50代、60代の一人暮らしの女性の平均収入は、9.5万円から2万円台にまで下降した。対照的に、「高度人材」と呼ばれる外国人の収入の減少率は10%でしかない。食料配布を通して思ったことがある。たしかに食料も大切だが、みな「社会的なつながりを保ちたい」という自然な欲求を抱えているのだ。私たちが訪問した時も、収入がなくなったにもかかわらずフィリピン料理を用意してくれた人、おしゃべりをして名残惜しそうにしてくれた人、涙を流しながら悩みを語ってくれた人、最後まで学生の手を握っていた人、いろんな方々がいた。

また、そうした対話を通じて、問題があれば私たちがNGOや市役所につなぐこともある。やはりコミュニティづくりの必要性を痛感する。希望の家のような、多様な人々に広く開かれている場を増やしていくことができればと思う。

安里 和晃（京都大学大学院文学研究科文化越境専攻准教授）



「東九条の語り部たち」 朴実さん少年期編

1950年にアボジが亡くなって、生活保護を一時期受けてたんですけど、打ち切られました。一番辛かったのは、小学校2年、3年の頃、給食代が払えないんですよ。たしか1ヶ月130円かなんか。親にも言うことができないし。そうすると、担任の先生が、黒板に名前を書かはんねんね。ずっと、永遠に書いてあるわけ。辛かったですわ。僕はね、1年生や2年生の始めまでは、発達がちょっと遅かったみたいで、今もしゃべり方遅いけどもね、ものすごく遅かったみたい。知的障害があるみたいに思われてたのか、上の子から草食べさせられたり、どっか連れていかれていたらさらされても、それほど、何をされているのか認識もなかったみたいですね。ただ、なぜか音楽はよくできてたっていう記憶があって。1年生の時、みんな一斉に木琴を叩かされて、今でもよく覚えてるのは、「おうま」という曲を一生懸命叩いてたら、先生が僕だけにマリimbaを持ってきはって、これを使え言うて。おっきおっきいのをね。そういうことはよう出来たんやと思うねん。兄弟が音楽や歌が上手で、西山王町の家の前が畑で、ねぎを刈った後広場になって、そこに演台を持ってきて、みんなでのど自慢大会して。うちの家族ばかりやけど(笑)。特に4つ上の兄貴は声がよくて、コロンビアレコードか何かからスカウトに来ました。兄貴は、のど自慢大会荒らして、全国大会にも何回か行って、商品もらって。だから僕は、学校入って音楽の本持ったら、全部歌えた。楽譜も読めたしね。音楽ができたんだなあ、と思います。2年生くらい、バイオリンをやりたくなって。レコード観賞でメンデルスゾーンバイオリンコンチェルト聴いた時、すごく感動して涙が出てきて。特にその時、給食も食べれなかったもので、その時に聴いたせいもあってね。感動して。丸物っていう百貨店の4階に楽器売場があって、毎日毎日見に行って。あの頃、丸物では、朝と晩かな、「家路」というね、音楽が流れてたんです。それともう一つ記憶に残ってんのは、うちの斜め向かいで、黄（コウ）さんが屋台引いてはって。日本の将棋がものすごく好きやってんね。僕に将棋教えてくれはったけど、全然歯がたたへんかって。二枚落ちいうて、飛車と角を下ろしてもらっても全然勝てへん。その人は「わしに勝つようだったらラーメンをタダで食べさす」言わはったから、お腹すいてるもんやから、必死になって。いいこと思いついたのは、耳鼻科とか歯医者があってんね。医者に見てもらうわけじゃなしに、友だちについて行って。週刊誌がいっぱいあんなねん。その将棋欄を見るわけ。それで、強くなって、やっと1年以内に黄さんに勝つことができました。ラーメン食べさせてもろた味が忘れられへん。小学

校2年生になって、北山王町（今の東山王町）に移りました。貧乏だから、奈良電、今の近鉄十條駅、東寺駅で新聞売りのアルバイトをしてました。大石橋に、朝日新聞、毎日新聞があって、向かいに京都新聞があってね。3～5年生ぐらいは、新聞配達してたんですけどね。そんなことしたあかんねんけど、勝手に新聞やさんで15～20、たくさん持っていくねん。というのは、須原通りあたりの人たちは、新聞ひと月で取らはらへんわけ。で、それを売るわけ。週刊朝日やらね。僕の記憶では、たいがい買うてくれはんねんけど、東北から来てるような、田舎から来てるっていう人がけっこう多かったね。ひとりもんにしても。うちが狭いから、子どもらはうちにおらへんかったかな。よう買うてくれはって、お金をたくさん儲けて、それでおやつ買うたり。兄貴が一番悪でね。あれとってこい、これとってこいって指図されるわけ。レンガやさんがあるね。レンガをとってきたら、けっこうお金になるねん。僕もバタ屋さんの車を借りて、いろんなもん持ってきて、売ったりして。それで、朝日館がそこにあるね、映画館が。朝日館の映画三本立てで、映画が変わる度に行ってたね。嵐寛寿郎とか美空ひばりとか。3日ぐらいで変わるのかな、1週間に2回変わるねん。それから、大きい事件で言うと、姉がね、僕が2年から3年なるとき、ちょうど中学卒業して、とても進学もできないからいうので、就職何回も応募して。でも朝鮮人は就職口なくて。結局、担任の先生が見かねて、通名で、本籍を西山王町に書きなさい、言われたんです。あの頃、松下電気は陶化中学校から二人しかとらなくって、高槻かあっちの方に工場があったと思うんですけどね。そこに、受かったんです。みんなで喜んでたんですけども、職員会議で、こんなことしてばれて、これを学校が指導したということになると、陶化中学校全体が、松下電気に採用されなくなるって。学校側から会社に、「この子は間違っ書いて」って。姉にしてみたら、担任の先生に強く勧められて書いたもんやから、もう学校に裏切られたっていう、その悔しさがすごくあったみたいで。卒業してしばらくして、睡眠薬自殺はかって、その時は助かって。2回も自殺未遂。2回目は危篤状態で、その後、精神に支障をきたして。

第一日赤の向かいに精神科の病院があって、あそこで長いこと入院してました。その後、十数年生きてたんですけど、結婚もしたんですけども、ずっと病気のままで亡くなりました。精神も治らなかったですね。それは、僕にとってはショックで。朝鮮人というままでは生きていけないよ



うに思いました。小学校4年生（1954年）になると、民族学級が正式にできたんですよ。入ったことは入ったんですけどね。あの頃は朝鮮戦争が終わったばかりの頃なんで、南北の対立がはっきりしていて、ほとんどの朝鮮人の活動家というのは総聯系なんですよ。朝鮮人民共和国（北朝鮮）支持で、北朝鮮は天国のような国であるっていう、そういう宣伝があって。歌なんかはよく覚えてるんですけどね。ある時、国の旗を描いてきなさい言われて、僕は描けなかったけど、兄貴に描いてもらって。今の韓国の旗ね。大極旗（テグッキ）が昔からあるから。それ持って行ったら、民族学級の先生は、それは昔の旗で、今の旗は、って言うて、今の北朝鮮の旗を描くように教えられて。それをうちに持って帰ったら、兄貴がカンカンに怒って、もう辞めてしまえ、言うて。で、辞めさせられたんですよ。それと、僕にしてみたら、みんなが国語とか、普通の勉強してる時にあったんでね。その分、勉強が遅れるん違うのかなあ、思って。それで、もうひとつ行く気もしなくて、意味もよくわからなくて、それで、すぐ辞めたんですよ。おもしろいのは、4年生くらいやったと思うけど、山王小学校入ったすぐ左側のところに風呂ができてね。いつまであったんやろね、あの風呂。みんな貧しくて風呂入れへんからやと思うねんけど。風呂に入ってから帰ってました。12歳になって、4月から陶化中学校入学。中学入るちょっと前から、アルバイトで豆腐売り始めたんですよ。豆腐屋けっこうあった。今も覚えてるけど、豆腐一丁が12円やってん。それが、五条通りの方までいくと13円なる。御所の近くまで行くと15円で売れる。12円で売って2円程たしか自分の金になんねんね。15円で売ったら5円、自分のものになるやん。だから、ばあーっと走って走って（御所の近くまで）行ったら、ガタガタ道やから、豆腐がぐちゃぐちゃになって（笑）。それで要領覚えて、いい道を選んで。ただ、行って帰ってきたら必ず遅刻やねん。塀登って入んねんけど、ちゃんと知ってはって。昔は風紀委員っていう担当がおんねん。部長と副部長。それと、先生が並ばせて出席簿でバシバシって殴っていきよんねん。みんな貧しいし、みんな朝鮮人や。担任の先生に、豆腐仲間が学校来なくなったんで聞いたら、七人退学させられててん。みんな朝鮮人。退学した後どうしたか。学校はね、藤ノ森中学行った子が多かった。義務教育やけど、朝鮮人は保護者が学校の管理者になんか一筆書くねんね。日本人は退学させられなかった。朝鮮人はしょっちゅう。僕もよっぽど殴りたかったけど、僕はあんまししなかった。悔しかったけどね。そら、好き好んでアルバイトしてるわけじゃないしね。食うていくためやし。そやし、学校辞めさせられた子はたくさんいたなあ。僕は中学入ってすぐ吹奏楽入って。2年生くらいから、僕が部長になって、一生懸命やって、みんなから恐

がられて。みんな必死になって、先生がいいひんもんやから、その分、必死になって勉強して、編曲したりしてやったんですよ。そやから、中学時代は豆腐売りとかのアルバイトと、吹奏楽。陶化中学校は、あの頃はものすごく荒れてて、学力も低かったんやろね。先生らは学力上げることが必死で。だから、僕らには、学力さえ身についたらなんとかなるって言われてんけどね。でも僕らはしらけた目を見てた。姉やら上の人見てても、なんぼ勉強したって、仮に大学出たって、ろくな仕事なかったし。だからもう、めっちゃくちゃ荒れてね。後に奨学金もらえって担任に言われて、受けたけども、後になって、奨学金に国籍条項があってね。もらえなかったん。そんなもん、陶化中学言ったら3割が朝鮮人で、そんなこと知らんとよう言うなあと思ってねえ。もらえるんですか？って言うたら、受けろって言われて。それで、受けられないって思った時には、ほんと、言葉にもならへんかったけどね。喧嘩したり暴れてた中に、後で暴力団に入った者もいて、風呂屋で会うたりしたら、背中流してもうたりしてね。昔、喧嘩したなあ言うてね。何人もいたなあ。退学なったり。みんな優秀やったと思うねんけどねえ、それなりに。（次号に続く）

<登録団体より活動報告>

災害時に障害者の生命・生活を守る社会を！ 障害者防災会議 代表 繁 周作

東日本大震災のあと「同地震に伴う津波により障害者など要支援者の犠牲者が健常者に比べて2～3倍にのぼった」という衝撃的な事実が明らかになりました。それを知り「これはなんかとかしなくては！」と思い立ち、福島原発事故で京都に避難されてきたご夫婦と共に当会を立ち上げました。

●当会の取り組み

・「災害時障害者差別解消ワークショップ（仮称）」の開催

会を立ち上げたものの「何から手を付けて良いか」も分からず、メンバーと共に3年間にわたり暗中模索した結果「災害時の命の危険や避難生活の困難さは、平時の生き難さがより増した結果である事。その平時の生き難さの大きな要因の一つは障害者などの少数者に対する差別にある事」を思い起こし、災害時に備えてやるべき事は「災害時に障害者が被るであろう差別を想定し、その差別をどうすれば無くせるのか？」を障害者だけではなく、多くの人々と共に



考える事だろうと思うに至り、更に「それを実現するには何をどうすれば良いのか？」を考えた結果、それらの差別事例をロールプレイで見せて、その解決策を参加者とともに考える「災害時障害者差別解消ワークショップ（仮称）」を企画しました。運良く京都市内の福祉従事者団体が集う協議会よりお招きを頂き、今年（2020年）10月に開催する運びとなりました。更にその後も京都市をはじめ各所で開催していく所存ですので同ワークショップに興味を持たれた方や団体様は当会にご連絡頂きますようお願い致します。

・京都市に対して「コロナ禍に関する要望書」提出

今年（2020年）5月。当会ではコロナ禍による障害者の窮状に対し「感染症流行も自然災害の一つ」と認識し、4団体+1個人の連名を頂き京都市に対して「コロナ禍に関する要望書」を提出しました。それに対して京都市から6月11日に、京都府から同月15日に回答が届き、現在各回答を精査し、対応を検討中です。



●会員構成（2020年7月現在）

- ・個人会員：13名
- ・団体会員：1団体
- ・メルマガ登録者：7名

●お問合せ先 e-mail: syougaisya.bousai@gmail.com tel: 080-5706-0511

編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

- 所在地：601-8006 京都市南区東九条東岩本町31 □tel：075-671-0108
- fax：075-691-7471
- E-mail：info@kyotonetworksalon.jp
- 開館時間：9時～17時 □webサイト：http://www.kyotonetworksalon.jp
- JR京都駅八条口・JR京阪東福寺・市営地下鉄九条駅より徒歩15分
- 京都市バス42・202・207・208系統 九条河原町より徒歩10分
- 16・84系統 河原町東寺道より徒歩1分